

## かながわ大会企画のお知らせ！！

「さあさあさあ、目白押しだよ、プログラム。来なきや損ソン」

かながわ大会みらいプロジェクト・全体プログラム部会

「ともに生きる～みらいのソーシャルワークの風をつくる～」という大会テーマの基、「ともに生きる」「当事者性」「MSW マインド」「神奈川県らしさ」「医療」という五つの柱を設け、「多様性のある かながわらしさ」にあふれた企画立案をおこなっています。ここでは「神奈川県医療ソーシャルワーカー協会が企画」しているプログラムのご案内をいたします。読んでしまった皆さんは、きっと「かながわ大会」に出席したくなることでしょう。

### 1. 東京パラリンピックへ向けて～リハビリテーションからパラアスリートの誕生・育成～



登壇者：熊谷俊介氏（横浜市障害者スポーツ文化センター横浜ラポール スポーツ指導員）

月村安孝氏（ウィルチェアラグビー「横浜義塾」監督）

若山英史氏（ウィルチェアラグビー選手日本代表・代表合宿の都合で変更の可能性有り）

ファシリテーター：半沢英明氏（神奈川県回復期リハビリテーション病棟協会連絡協議会事務局長/  
鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院）

障害者スポーツは、リハビリテーションの一手段としてはじまり、市民の障害者に対する理解を深めることや、障害者の社会参加の推進に寄与してきました。近年、競技性の向上は目覚ましく、現在はスポーツ庁において、スポーツ振興の観点から一元的な推進が行われています。また、「2020東京オリンピック・パラリンピック」を来年に控え、競技スポーツへの社会の関心も益々高まりを見せています。

一方で、リハビリテーションの手段として行うスポーツ（以下リハ・スポーツ）の存在は忘れてはなりません。パラリンピックを始め国内外の大会で活躍する選手らも。

まずはリハビリテーション医療、自立や社会復帰へ向けた訓練を経てパラアスリートへと成長します。そのためには、医療・福祉施設等での身体機能の向上やスポーツ参加への動機付け、退院・退所後の地域生活でスポーツを続けるための環境整備や仲間づくりなど、総合的なリハビリテーションの継続的な支援が不可欠です。大会プログラムでは、リハ・スポーツに従事する指導者、地域でスポーツ普及に関わる支援者、そして、パラアスリート当事者など、各々の視点から議論を交わし、本テーマに関する理解を深める場となります。聞いていそうでなかなか聞けない内容です。パラアスリートの活躍を今後見聞する際に、より深い理解をもてるでしょう。

### 2. がん患者はみた～ソーシャルワーカーの現状と未来～

メッセージャー：

広瀬真奈美氏（(一社)がん患者フィットネス代表理事）およびメンバー

「がん患者が”共に生きよう”と決めた理由」

右田孝雄氏（中皮腫サポートキャラバン隊共同代表/中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会）

「中皮腫患者に丁寧に話してほしい社会保障のこと」

天野慎介氏（(一社)グループ・ネクサス・ジャパン理事長/(一社)全国がん患者団体連合会理事長）

「がん疾患当事者が期待するSWからの支援」

自ら「疾患」を抱えつつ、当事者のピアサポートや社会変革の最前線に立ち取り組んでおられる三名の方から、現状や展望を率直に語っていただきます。また、エールを込めて、ソーシャルワーカーへ期待する言葉も沢山頂きます。これは聞かしくないです！



### 3. がんと共に歩む力を～安心して心開ける第三の居場所～

講師:秋山正子氏(認定 NPO 法人マギーズ東京共同代表理事)

マギーズ東京を知っていますか? イギリスのマギー・ジュクスさんの体験から「治療中でも、患者ではなく一人の人間としていられる場所と、友人のような道案内がほしい」と願ったことから始まって、イギリスには約20箇所、香港やオーストラリアなどにもあります。日本にもマギーズセンターの場所が必要と、動かれて2016年に多くの仲間と共に「マギーズ東京」を開設しました。

秋山氏は、マギーズ準備室を意識した相談所「暮らしの保健室」を都営団地に開き、がん患者だけではなく地域の人の様々な道案内の場所として地盤を作られていました。ソーシャルワーカーは、一緒に悩み、考える力を取り戻す助けができるはず。秋山氏が語られる言葉から一緒に自分自身を見つめてみませんか?

(2019年2月2日発行「朝日新聞 be フロントランナー(P1・3)」で、秋山正子氏のロングインタビューが掲載されました)

### 4. 多様な価値観と尊厳の回復に私たちはどう向き合うか!?(前篇)

#### 「リハビリマインド(尊厳の回復)が目指すパーフェクトワールド

#### ～医療倫理と心のバリアフリーからSWマインドを探る～」

＜ランチョンセミナー(ベネッセシニアサポート協賛(ベネッセスタイルケアグループ))＞

(神奈川県回復期リハビリテーション病棟協会連絡協議会(SW部門)企画)



講師・ファシリテーター:石川誠氏(医療法人社団輝生会会長・リハビリ専門医)

ゲスト1:阿部一雄氏(漫画「パーフェクトワールド」モデル・取材協力・車椅子の一級建築士)

ゲスト2:2019年4月ドラマ化「パーフェクトワールド」関係者(制作スケジュールの関係で登壇不可の可能性あり)

リハビリテーションには身体機能の回復だけではなく尊厳の回復という意味があります。リハビリ専門医石川誠氏が人類の歴史と医療の変遷からリハビリテーションの考え方の誕生と医療倫理の世界を紐解いていきます。

その世界観を基に、一級建築士、車いすユーザーとして、漫画「パーフェクトワールド(2019年4月16日(火)21時フジテレビで連続ドラマ化)」のモデル阿部一雄氏のバリアフリー建築と心のバリアフリーの融合についてお話頂きます。

そして、本人とまわりにいる人たちとの葛藤を映像で魅せ、問題提起するという視点でドラマ制作者から語られる「パーフェクトワールド」の世界を一緒に体感しましょう。

(ランチョンセミナーなのでお弁当が付きます。そのため申し込み時の事前予約制です。当日キャンセルが生じた場合、講演開始前後に入場可能となります)

### 5. 多様な価値観と尊厳の回復に私たちはどう向き合うか!?(後篇)

#### 「あなたが出会ったLGBTの患者たち～無知が刃になるとき～」

(神奈川県回復期リハビリテーション病棟協会連絡協議会(SW部門)企画)

講師:砂川秀樹氏(文化人類学者/博士(学術)・LGBT当事者(ゲイ))

皆さん、LGBTと聞くとどういうイメージを持っていますか? カミングアウトした明るい芸能人!? 2015年アメリカで開催されたりハビリ学会で、トランスジェンダーの高い自殺率、ヘイト・クライム等による犯罪に巻き込まれ殺害された件数が前年と比べ、2倍の数字になっており、尊厳が侵害されていることが報告されています。LGBTの人たちは生きづらさを抱えながら誰にも相談できず、更に疎外感と抑圧を深めている構造が出来上がっており、デリケートな問題を抱えています。

私たちソーシャルワーカーも、知らないうちにLGBTの人たちを傷付ける刃の一端を担っていたかもしれません。



## 6. ソーシャルワークと当事者研究

### ～スティグマ(偏見・差別)を漸減させる取り組み・津久井やまゆり園事件をふまえて～

(サブタイトルは仮題)

講師:熊谷晋一郎氏(小児神経科医/東京大学先端科学技術研究センター准教授/脳性まひの当事者)

昨秋に、熊谷氏と打ち合わせで初めてお会いし、色々とお話を伺いました。氏は医師ですが、「ソーシャルワーク」について見識を積んでおられ、これからの社会においてソーシャルワークの重要性を強く認識しているということを感じました。また、氏ご自身が脳性まひの当事者として多くの体験をされ、そこから「当事者」の「知」を社会に発信し、スティグマを漸減させる実践に取り組まれています。私たちソーシャルワーカーが学ぶべきものが、ここにあります。

参考文献として、「臨床心理学増刊第9号—みんなの当事者研究」「臨床心理学増刊第10号—当事者研究と専門知」を事前に読まれることを、お勧めします。また、ホームページ上にも数多く、熊谷氏の考えや今後の当事者研究の方向性が示されています。ご参照ください。

## 7. ソーシャルワーカーだからこそできる、外国人が困らない病院づくり

シンポジスト:沢田貴志氏(港町診療所所長/認定NPO法人シェア＝国際保健協力市民の会副代表)

松野勝民氏(NPO法人多言語社会リソース(MIC)かながわ理事長)

大川昭博氏(NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク理事)

ファシリテーター:井出みはる氏(国際親善総合病院)

外国人労働者の受け入れ拡大に向けた改正出入国管理法(入管法)が今年4月1日から施行されます。「made in JAPAN かもしれないが、made by JAPANESE ではない(大川氏談)」という状況がますます拡大します。では日本

国内に増える外国人労働者が傷病を抱えた場合、どのような事態が起こるのでしょうか。そして私たち医療に携わるスタッフはどのようにアクションを起こしていく必要があるのでしょうか。

常にその様な状況を目の当たりにし、支援されている三名の方から現状報告と取り組むべき課題を伝えて頂きます。私たちは聞いたその時から次に何をなすべきかを発見するでしょう。



## 8. 寿地区の「今」を知ること、現代の医療福祉的課題を考える。

シンポジスト:鈴木伸氏(医療法人ことぶき共同診療所院長)

笠原彩子氏(横浜市中福祉保健センター)

佐野晴美氏(JCHO 横浜中央病院)

ファシリテーター:篠原直樹氏(横浜市南福祉保健センター)

「日本三大簡易宿泊所街」の一つと言われる横浜市の寿地区はかつて「労働者の街」といわれ、血気盛んな男性が多く暮らしていました。しかし現在は、高齢化が進み、障害・慢性疾患を持つ住民が増加し、「労働者の街」から「福祉ニーズの高い街」へと変貌しています。

近年は、他都市からも「横浜へ行けば何とかなる」と寿地区に身を寄せる路上生活者や、アパート契約時に保証人や緊急連絡先人がたてられない単身者、刑務所出所者(累犯者)の増加がみられ、他の場所で暮らしたくても暮らせない人が生活する場となりつつあり、社会的な差別・排除の対象となっているように感じられる場面もあります。

今回、寿地区で活動している医療福祉分野の方のお話を伺うことで、医療福祉分野から見える、寿地区の「今」を知り、「差別・排除の問題」、「多様性の承認」、「地域包括ケアシステムのあり方」、「外国人医療の問題」、「依存症」、「身寄りのない人への支援」、「意思決定支援」など、現代の医療福祉的課題を考えるきっかけにしたいと考えます。私たちソーシャルワークの根源である人間の尊厳の尊重という視点を今一度、共に考えようではありませんか！



## 9. アルコール依存症者のリカバリーを支援する～支援力を高める回復者の語り～



講師・ファシリテーター：稗田里香氏（東海大学健康科学部准教授）

シンポジスト：野口顕氏（横浜断酒新生会・回復者）

AAメンバー（AA横浜地区・回復者）

山田薫氏（鎌倉逗子断酒会・当事者家族）

報告：斉藤正和氏（相模原中央病院）

一般医療機関に勤務する私たちは、アルコール依存症から回復した人が数多くいることをどれだけ知っているでしょうか？また、一般医療機関に受診している未治療のアルコール依存症者へどのように支援したらよいか、わからないことがたくさんあるのではないのでしょうか。

このプログラムでは、断酒会メンバー、AAメンバーといった回復者や、その家族の「語り」を聞くことで、私たちソーシャルワーカーがどのように関わり、支援したら良いかと、ソーシャルワークの支援力をととも高める時となります。

どのように支援したら良いか、普段の業務で悩んでおられる皆さんもそうでない方も、解決の糸口を得られるプログラムです。

## 10. 「生」の場面でのソーシャルワーカーの役割を考える～ソーシャルワーカーの本質・独自性～

課題提供者：西田知佳子（認定NPO法人環わの会）

田中美維（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院）

富川由美子（東京女子医科大学八千代医療センター）

小糸亜紀（藤沢市民病院）

上村有紀（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院）

吉原千佳（東北大学病院）



保健医療分野のソーシャルワーカーは、生老病死に伴う心理社会的問題について支援する役割を担っています。しかしこのところ、入退院支援加算や他職種との協働業務の中で、ソーシャルワークの本質を意識することが少ないのではないのでしょうか。

さらに業務の効率化や加算の数に追われ、ソーシャルワーカーとしての専門性の発揮やそれを意識すること・意味づけることが容易ではなく、危機感を感じている方も多いかと思えます。

このプログラムでは、「出産したが子どもを育てられない」という事例を中心に、ソーシャルワーカーがどのような独自性（専門性）をもってインテーク、アセスメント、プランニング、インターベンションを行ったかを振り返りたいと思います。「生」の場面である周産期のソーシャルワークについて検討し、ソーシャルワーカーの“核”や“揺るがないもの”を意識でき、変化の多い保健医療分野においても“ぶれないソーシャルワーカー”でいられるようになることを目指したいと思っています。

周産期や小児には縁がないという方も、「生まれる」場面は全てのソーシャルワーカーに通じる基本が埋まっている宝庫です。明日への活力を養うために、是非ご参加下さい。

おおよその参加人数を把握したいので、参加希望の方は、前もっての登録をお願いいたします。

## 11. Three Stage Social Worker からの提言

### ～急性期・回復期（慢性期）・生活期を結ぶ退院支援のありかた～

シンポジスト：篠原純史氏（国立病院機構高崎総合医療センター／日本医療社会福祉協会前調査研究部長）

取出涼子氏（医療法人社団輝生会本部 教育研修局部長（SW・CM担当））

渡辺明子氏（楓の風グループ リハビリテーション課 ソーシャルワーカー部門長）

ファシリテーター：富永千晶氏（東京都済生会向島病院）

「Three Stage Social Worker」、これは造語です。この言葉には、「急性期・回復期(慢性期)・生活期」という3つのステージ・枠組みで「退院支援」を考えていく場を作っていきたい、という私たちの思いが込められています。

退院支援に様々な思いを抱いているソーシャルワーカーが、少しでも元気になれる場を設けています。是非、明日からのエネルギーを持ち帰りましょう。



これらの他に、日本医療社会福祉協会企画プログラムも、とても充実しています。詳細は、ホームページ (<http://www.knt.co.jp/ec/2019/jaswhs/>)を参照ください。スケジュールも近々発表されます。

皆様、参加したら得して役に立つこと間違いなしです。万障お繰り合わせの上、是非お越しく下さい。変化著しい武蔵小杉の地で、私たちは皆様のご参加を心からお待ちしております。